

今度農協青壮年部とパイオニアクラブが本町の文化財であります虫追祭を十三年ぶりに復活させ、今後技術を保存したいと思います。

つきましては出陣式を左記日時に開催致しますので是非御観覧下さいます様御案内申し上げます

記

一、日時 十月二十二日 午後一時

二、場所 Aコープ田主丸前広場

昭和五十二年十月

田主丸町農協青壮年部
田主丸町農協パイオニアクラブ

▼田主丸天満宮(昭和52年)⑮



長が人形と馬にお清めの御神酒と塩を撒きました。その後、田主丸の各所を回りました。この時の順路は、次の通りです。

- ・田主丸町役場（現在の久留米市田主丸総合支所の場所）
- ・田主丸中央病院（現在の病院建屋北のバス待機場所で演技）
- ・ゆうかり学園（現在の福岡県立田主丸特別支援学校の場所）
- ・内山緑地（杜屋前の駐車場で演技）

・福植市場(苗木の取引場所。現在の福岡園材から約1000m南の場所)
・交換会(苗木の取引場所。現在の福岡園材の約70m西、現在の永松板金塗装の付近)
・寿会館(飲食店。船越小学校入口交差点そば現在のミニストップ久留米田主丸店から国道210号を挟んだ向かい側)
これで午前中が終了し、昼食となりました。現在の昼食場所のグリーンパレスは当時まだ無く、田主丸町農協に戻りました。食事は、農協婦人部が炊き出しに協力したAコープ田主丸店のおにぎり3個パックが配布されたようです。

午後、Aコープで出陣式
午後1時からAコープ田主丸店で出陣式が始まりました。現在の出陣式は、田主丸天満宮で祈願祭に続けて境内で行います。なお、Aコープ田主丸店は1週間前の10月15日に開店したばかりでした。

出陣式には約1500人の観客が集まりました。大観衆を前に高山昌則組合長が挨拶しました。広報紙『農協田主丸』第54号によれば、その挨拶は「虫追い祭りをパイオニアクラブ員の手で復活したことは喜ばしい。今後とも毎年続け、町民の年中行事にしたい」というものでした。

この発言に、パイオニア池尻和守会長は「これは大変」と驚いてしまいました。今回の祭りを実現することに手一杯で、パイオニアでは次回について議論したことがなかったのです。虫追い役割帳の『昭和52年虫追い祭覚書』にも「第1回」の文字はありません。

また池尻さんは、高山組合長が毎年ではなく「3年ごと」と発言したように記憶しています。まさに現在の虫追い祭りの開催間隔です。

一連の挨拶が終わると、店舗東側の駐車場で、1週間必死で練習した成果を披露しました。大馬が1周回ると、実盛と手塚が踊りと刀合わせ、そして、ぶつかり合いの合戦を2回展開して(清水さんの日記では1回)、観客の度肝を抜きました。こうして練習成果の発表を終えると、虫追いの行列は町の中心部へと練り歩き始めました。

A group of men in white uniforms are pulling a large, ornate wooden float shaped like a horse. The float is decorated with red and gold patterns. The men are wearing white hats and are pulling the float on a street. A man in a dark uniform is in the foreground, possibly a police officer or festival official. The float is being pulled on a street, and there are other people visible in the background.

A large crowd of people, many in white shirts, gathered around a tall, narrow structure, possibly a monument or a large sculpture, during a public event. The structure is made of vertical poles and has a small figure or object at the top. The crowd is dense, and the scene is outdoors on a paved area.

まず馬の骨組みを真竹で組み、針金を巻いて補強しました。その外側に馬の形になるように、真竹を割ったヘゴ竹を格子状に組ん

で丸みを出しました。怪我せぬよう針金を内側に入れたり、ヘゴ竹を作るのに、手間と時間がかかりました。

真竹は、馬作りが急に決まったので、現在の想天恋田主丸店付近にあった竹屋から購入しました。10月に伐った真竹は虫が入らず長持ちします。これも大馬が今も使用できる1つの要因です。

馬の胴体の表面には、黒色の寒冷紗(かんれいしや。目が粗い農作業用の薄い布)を用いました。頭部や尾は稲藁、目・耳・口はトタン板で作りました。

首から頭は、人形の飾り付けもした農協の鳥越美智夫さんが稲藁で製作しました。出来上がりを見て、田中課長は驚きました。稲藁で作ったとは思えないほどキリッとした顔つきで、特に切り揃えられたフサフサのたてがみは素晴らしく、凛々しいサラブレッドのようでした。

大馬が完成したのは、開催前日の10月21日でした。製作期間は、わずか6日。それでいて45年間もの使用が可能とは、なんと高品質な突貫工事でしょう。

こうして開催が正式決定した10月4日から、18日間準備を整えました。人数分の衣装や腰に巻くしめ縄、小屋入り（練習期間に入る決起大会）の実施に打上げの準備、食事の手配、案内状や覚書など印刷物の作成配布、「虫追い祭」の横断幕や幟旗なども、全て整えました。

そして翌日、昭和39（1964）年以来13年振りの虫追いが、とうとう田主丸に戻ってきたのです。

昭和52年 虫追い祭覚書

期 日	昭和52年10月22日		
主 催	田主丸町農協青壮年部 田主丸町農協バイオニヤクラブ 田主丸町虫追い保存会 田主丸町教育委員会		
名 譽 会 長	高山 昌司		
会 長	永松 憲一		
副 会 長	池田 和守	池田 吉和	今村 覚 瓦林 利光
幹 事 長	田中憲隆英		
幹 事	上村 守康		
総 務	清水 良司	倉宮 徹人	
虫 追 い 文 書 係 長	教育委員会	行徳 平八	
人形作組等者	馬田 始	栗本 正吉	上野 虎太 石橋 亨一
裏 作 り	中村 重徳 (責任者)	池田 和守	吉岡 正博
	中野 正徳	大旗 孝志	池田 吉和 (外数名)
人形作応援者	島崎美智矢	田中ミツカ	二宮シノブ
人 形 踊 り 者	北川 勝美	井上 義敏	林田 寛 富安 豊
	林田 安隆	林田 政利	林田 康光
	林田 啓二	佐藤 義一	松本 康光
たいまつ係	土屋 治男		
人 形 監 判	林田京一郎	吉沢 隆義	人形踊り指導者会員
太 鼓 方	池田 和守	今村 重徳	柳原 末広 横瀬 重光
	上尾 忠志		
旗 方	田中 邦彦	横瀬 明博	中野喜八郎 藤田 義博
	井上 誠二	大石 修一	

手 塚 方	中島 靖広	草野 俊英	中野 康彦	馬田 一馬
	立石 恒雄	今村 知昭	二又 清	正美 正美
	吉岡 正博	草本 光義	井上永太郎	島崎 彰夫
	立石 守利	横瀬 晋夫	水城 正信	林田 三郎
	佐藤 亨	横瀬 孝夫	池田 隆次	林 広記
裏 塚 方	坂井 忠治	森田 俊則	立石 敬高	綾部 康幸
	中野 義平	藤村 寿幸	中野 静雄	吉岡 晋喜
	中野 正徳	上野 英一	菊池 勝	岡村 金二
	佐藤 孝夫	中野 安博	高橋 俊敏	岩佐 政文
	大石 三成	木下 博秋	島田 正孝	大橋 孝志
	横谷 俊康			
馬 廻 方	林田 義明	永松 重徳		
馬 方	山崎 光生	立山 晋文	西藤 広幸	草津 正義
	栗木 隆利	林田 光雄	上野 康幸	林田 聖治
	島崎 喜孝	松本 輝雄	秋田 孝	谷川 孝三
	北田 三純	今村 勲	千地 隆	第三 第三
	右田 敏一	立石 敬高	石井 重敏	山下 敏夫
	高山 義弘	保坂 昌孝	土屋 清登	横瀬 敏夫
	江上 光男	馬田 信幸	上野 慎男	保坂 幸幸
	田中 修二	岩瀬 睦幸	野村 喜広	西 一男
	水城 清	中野 知男	(外数名)	
交 通 責 任 者	今村 清			
観 望 員	横田 定和			

140名参加
観客 2500名
11月104名

昭和52(1977)年10月22日、晴れ渡った空の下、虫追い祭は行われました。

主催は、田主丸町農協青壮年部、農協バ
イオニアクラブ、田主丸町虫追保存会、田
主丸町教育委員会。まさに町ぐるみの開
催です。

農協組合長、会長に農協青壮年部長、副会長にはパイオニアクラブ会長・同副会長、農協参事・田主丸町教育委員会教育長、そして、顧問には田主丸町長が就いています。

虫追いの各役は、手塚方20名、実盛方21名、馬方34名外数名、鐘太鼓方11名、人形裁判（指導者などからなる監督役）12名で計98名余。この他に垂れ幕や幟旗、馬や鐘

A group photograph of the 1954 Japanese national football team, known as the 'White Ship' team. The players are dressed in white jerseys with red trim and white shorts, posing in front of a building.

ちなみに、令和元(2019)年第15回と令和4(2022)年第16回の役割人数は、人形裁判が指揮棒を振る2人だけになった以外は、人形・馬・鐘太鼓ともに昭和52年とほぼ同数となっています。